

ルルドの丘

2019
1月
No.43



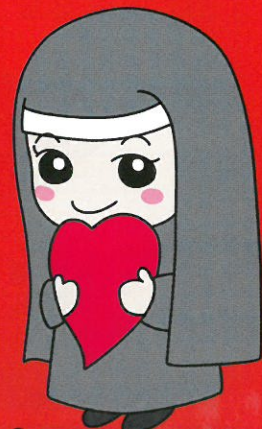
社会福祉法人 聖母の騎士会

恵の聖母の家 医療型障害児入所施設・療養介護

児童発達支援センターめぐみ

相談支援事業所こころ

訪問看護あんな



めぐみん

▼「みことば」では聖書等の御言葉をお伝えします。 ▼「きらりん」では皆様の活動をお知らせします。

みことば

“幸せの秘訣”

幸せになるのは、とても簡単。
幸せになりたいなら、
もうできなくなったことを嘆くのをやめ、
まだできることがあるのを喜びましょう。
まだ持っていないものをうらやむのをやめ、
もう持っているものに感謝しましょう。

片柳弘史神父
『こころの深呼吸』より

きらりん

作品展示を通して

昨年、第33回国民文化祭・おおいた2018 第18回全国障害者芸術・文化祭おおいた大会が県内各地で開催されました。皆さんも、美術や芸術等、いろんな文化に触れる良い機会となったのではないのでしょうか。最近は障がい者アートにスポットがあたり、いろんな場所でいろいろな発表があったり、作品と企業がコラボして商品化されたりしています。

恵の聖母の家には、平成29年から、入所利用者が中心になって絵画等の制作活動を行っているアートクラブがあります。彼らの作品に向かい合う姿は、ひたむきで一生懸命で、とても楽しそうにしています。支援者にとっても、新たな発見があったりします。できあがった作品も、それぞれの世界観があって魅力的だと感じています。このアートクラブの作品を各地に出展してきました。例年出展している“ときめき作品展”や野津町文化祭等に加えて、臼杵市医師会立コスモス病院での展示、うすきまちなかアート、全国障害者作品展、福祉と教育を考えるフォーラムinうすき、大分県こころとからだの相談支援センターで開かれた、“第9回こころとからだの健康フェスティバル”といった、新たな場所での出展も行ってきました。また、当施設の行事、家族の日・ファミリーフェスティバルでは、アートクラブの作品をポストカードなどにして販売し、その収益で自分たちの作品をTシャツにプリントして楽しむこともできました。臼杵市観光交流プラザで開かれたうすきまちなかアートには、このTシャツを着て出かけました。会場では、保護者、コスモス病院のスタッフ、傾聴ボランティアの方から、作品の感想を直接聞くこともできました。作品やTシャツが評価されたこと、認められたことは、入所利用者にとって大きな自信となったようです。「もっと頑張りたい」「またいろんな所に展示して、皆にみてほしい」「クリスマスカードにして売るのはどうかな？」という前向きな声がメンバーから聞かれています。

今後も制作活動を楽しめる環境を確保しながら、たくさんの人々に彼らの作品の魅力を知ってもらいたいと思っています。そして、たくさんの人と繋がる活動を、これからも支援していきたいと思っています。皆さん、ご協力をお願いします。

生活福祉課主任 保育士 廣田 由美子



※表紙写真：イノシシに乗る放課後等デイサービスのお友だちです☆今年も元気に過ごせますように♪

巻頭言

総看護師長

藤井 智恵

「皆さまの施設では、利用者の急変時の対応を、職員間でのようになされているでしょうか。」と、問われても、救急蘇生マニュアルにそって、定期的に訓練を行い、医師・看護師が中心になって救命に力を注ぐということが、普通であると思います。

昨年、熊本県天草市の「はまゆう療育園」で行われた九州・沖縄重症障害施設経営研究会で、同施設の星出龍志医師から「重症児者施設に特化した救急訓練法（I-JLS）」を聞くことができました。先生の講演を聴いて依頼、是非当施設でも取り入れられないかと思ひ、星出先生にご講演をお願いしました。先生は快く引き受けて下さり、十一月二十九日に当施設で講演をしていただきました。

一般的に行われている救急法には、BLS（一次救命処置）、ACLS（二次救命処置）、PALS（小児の二次救命処置）などがあります。しかし、いずれも重症児者施設には適していません。それはなぜかという点、重症児者の急変の特徴として、一、呼吸障害から急変が起こることが多い、二、気管切開をされていることが多い、

い、三、誤嚥から急変することが多い、ということが挙げられるからです。

そして、星出先生から講演していただいたI-JLSは、施設内で発生した突然の心停止に対して、最初の十分間に行う対応と適切なチーム蘇生のための訓練I-CLS（直ぐに行う救命処置）を重症児者施設用に考案したものです。I-JLSは、たとえ夜中に利用者が急変しても、当直医が到着するまでの間約十分で、最善の対応が行えるようになる。というものです。

そのために必要なことを三つ挙げられました。一つは、発見から救命処置までの時間短縮です。スタッフが三名いた場合、まずは「〇〇さん、急変です。」「〇〇さん、誤嚥です。」というように、報告者の言葉を統一し、あとの一名は直ぐにハリコーンを持って現場に駆け付ける体制をとること。二つ目に、事前に酸素には酸素化を改善するためのジャクソンリース（アンビューバックではなく、一〇〇%酸素で換気できるもの）を接続し、マスク、エアウェイを準備しておくこと。

とで、効果的な酸素の改善を図れること。三つ目は、重症児者特有の病態への対応として、誤嚥時にはハイムリッヒ法ではなく、背部叩打法を使用するということでした。

はまゆう療育園では、訓練を行うために、まずインストラクター（看護師）を十人ほど養成したそうです（指導する立場になると責任があるので、忘れないようです）。その人が三名の生徒に、約三十分かけて三つの想定シナリオ（一、心配停止、二、呼吸不全、三、誤嚥）について指導します。例えば、一、心肺停止の場合、A（〇〇さん急変です」と叫び、すぐに心臓マッサージを始める）、B（返事をし、酸素・吸引器を持って気道確保とECCランプを行う）、C（返事を呼んで人を呼び、モニターを持って呼吸補助につく）を交代で行い、これを最低三回受講し、インストラクターが合格と認定したら卒業となるということでした。実際に訓練を行っているビデオも講演の中で拝見しました。三名の受講生は、全員が医療資格を持っていない人達ばかりでしたが、三回の訓練で決められた動きが

スムーズにできていたことに感銘を受けました。また、実際の救命例もご紹介いただき、訓練の成果が出て、大事には至らなかったケースも紹介していただきました。

当施設でも、似たような経験をしたことがあり、講演後は、自分たちがまず何をしなければならぬかなど、職員から質問が多く出て、みんな熱心に受講していることが感じられました。訓練や経験を重ねると、確かに自信にもつながりますし、重症児者施設においては、看護職以外の職員の協力が、大きな意義があると思います。救命時の時間短縮のために必要なこと、自分たちのとるべき行動、日頃からの訓練を重ねておけば、夜間においてもスムーズな対応ができるのではないかと思います。

I-JLSは、日本重症心身障害学会誌の四十巻三号にも紹介されており、当施設でも、ぜひ取り入れて、重症児者の急変に対して極めて有用な訓練ですので、より多くの施設で実践されることを期待しております。

▼写真は、ある冬の日のルルドの丘です。



▼各部署の声です。今年度の目標 「共同」 共に輝き成長する

薬剤課



風邪と抗菌薬と
薬剤耐性菌

薬剤課 佐藤 雅之

もうすっかり季節も冬になり、体調を崩しがちな季節になりました。この季節によく見られるのが風邪ですね。本日は風邪と抗菌薬と薬剤耐性菌についてお話ししようと思います。

咳、鼻汁、喉の痛みや発熱、全身倦怠感などを引き起こす、所謂「風邪」は80〜90%がウイルスによるものだとはいわれています。細菌が原因によるものではないので、「抗菌薬」は効果がありません。

病院にかかった際に風邪で抗菌薬が出たことあるよ、という方もいると思います。本人は風邪と思っているけど、検査等によって細菌感染が疑われたのかもしれないし、風邪をこじらせて肺炎等になるのを予防する目的で出されていたのかもしれない。

しかし、風邪に対する抗菌剤の使用で問題も出てきました。抗菌薬の効かない薬剤耐性菌の出現です。

最初のうちは製薬会社が新しい薬を開発して対処もできましたが、それに対する耐性菌が出てきて、イタチごっこが始まりました。そして現在新薬の開発スピードは遅くなつてきています……。

これまでのように耐性菌に対して新薬で対処することが難しくなっています。だからこそ、耐性菌の出現を抑えなければなりません。その為に医療従事者は適正使用を心がけています。

『風邪で病院を受診したのに抗菌薬も出さないなんてひどい』等思わないでください。



い。繰り返しになりますが、風邪(ウイルス)には抗菌薬は効果がないのです。不適切な使用が耐性菌を作ってしまった。医師も患者がいて成り立つため、希望される処方してしまうことがあります。決して自分から『抗菌薬をください』など言わないでください。医師が必要だと判断すれば要求しなくても薬は出ます。耐性菌を防ぐためにも頭の片隅に置いていただくと助かります。

訓練課



三浦先生をお迎えして

理学療法士 日高 亮

みなさん、明けましておめでとございませう。良い年越しを迎えられましたか？それぞれいろいろあった二〇一八年だったと思いますが、新しい一年の始まりはいくつになつても心がウキウキするような新鮮な気持ちを感じます。私自身、これからの一年でどんなことが起きるのだろうか、今から非常にワクワクしております。本年度もそして来年度も新年を迎えることが楽しみになるような一年間を過ごしていけるよう、日々の仕事に取り組んでいきたいです。

今回は二〇一八年の振り返りということ、私の中で一番大きかったトピックについてお話をしていきたいと思っております。当施設では二〇一八年五月二十八日に北海道の八雲病院から三浦利彦先生をお招きし、ご講演をさせていただく機会を得ました。きっかけは私が昨年一月に二週間ほど八雲病院で研修をさせて頂いたことから始まり、三浦先生のご好意で当施設での講演会を開催していただけることになりました。三浦先生は私と同じ理学療法士として働かれており、二十年以上にわたって筋ジストロフィーなどの神経筋疾患の方に携わっておられる方です。海外の理学療法にも精通されており、神経筋疾患に対する呼吸理学療法分野において、最先端の取り組みをされています。八雲病院での研修は大変勉強になり、実際の利用者の方々の生活や呼吸理学療法の場面を見学し、私自身多くのことを学ばせていただきました。研修を終え、「ぜひ恵の聖母

の家の職員にも知ってもらいたい」と感じていたため、今回の講演会を開催できたことは大変うれしく思いました。

当日の講演では、他施設の方も含め多くの方々に参加していただき、「利用者が人工呼吸器を使いながらも生き生きと活動していた」、「口から食べることを続けるためにも呼吸理学療法が大切だということがわかった」など、ご好評をいただきました。当施設でも筋ジストロフィーの方や呼吸理学療法を必要としている利用者があるため、今後の恵の聖母の家の取り組みについて考える良い機会となったのではないかと思います。また、講演中、八雲病院の利用者の過ごす様子も動画でみてもらうことができ、その生き生きとした姿に私を含め、多くの職員が希望を持ったと思います。

現在、八雲病院での研修で教えていただいたことを日々の業務の中に取り入れながら利用者の方々に関わっています。「障がいを持った方の世界を広げたい」、という気持ちで仕事をさせていただきましたが、八雲病院での研修や三浦先生からの教えは私自身の世界を広げてくれたと思います。そのおかげで、以前にも増して現在の仕事に就いて働いていることを楽しく思えるようになってきました。新しい環境や人との出会いによって、私の二〇一八年はとても充実したものになったと思います。二〇一九年、また一歩前進できるように新しいことに目を向けながら日々精進していきたいです。



看護課



夢に向かって頑張る 息子に思うこと

看護師 梶原 美香

私には、今、高校二年生の一人息子がいます。今は離れて暮らしています（泣）。その理由は、息子は県外の高校に通っていて、下宿生活をしているからです。

息子は幼い頃から、旦那の野球好きの影響で、自然と野球が好きになり、「大きくなったらプロ野球選手になりたい」と、小学一年生から少年野球チームに入り、六年間学び、中学では硬式野球チームに入り、野球に打ち込んできました。年齢を重ねるごとに、漠然としていた夢が、少しずつ、現実化され、中学三年生になる時には、ちゃんと自分の進路を考えていました。そして、中学三年生の夏、「〇〇高校に行きたい」と告白されました。野球がうまくない、甲子園に行きたいという理由で。

私はこのことを初めて聞いた時、驚いたのと同時に、息子が自分の意志で、それも県外の高校を選んだことに対して、感動し、嬉しく思ったことを覚えています。寂しくなるけれど応援しようと、素直に思いました。しかし、県外ということは、親元を離れ、寮や下宿に入り、一人暮らしをする事になります。食事、洗濯、身の回りのこと全て（私が今までしてきたこと）を自分でしないといけないこと、学校と部活と一人暮らし…、両立ができるのか、私はそれだけが心配でした。とても大変なことですが、同時に、息子と離れて暮らすことの寂しさがこみ上げてきました。こんな大変なことをしないといけないのに、それでも行

くのか、何度も説得したけれど、息子の気持ちは変わりませんでした。野球への気持ちの方が勝っていたんですね。

そして、去年の春、受験し、〇〇高校に合格しました。入学して一か月はとてもきつくて、大変だったけど、先生やクラスの友達、野球部の仲間のおかげで、楽しく過ごすことができましたし、今は、学校、部活、一人暮らしにも慣れ、充実した高校生活が送れているようです。

夢の実現のために入った〇〇高校。部員は一〜三年生百二十名。現在は、一、二年生八十名。厳しい世界であることは覚悟して入部した野球部。やはり息子よりレベルが高い子ども達が勢ぞろいでした。そんな大勢の仲間たちと切磋琢磨しながら、甲子園に向かって、一生懸命頑張っています。息子はレギュラーには程遠いけれど、まだまだ諦めずに、毎日毎日、自分と戦っています。あと一年もない…、残りの高校野球生活。悔いが残らないように頑張ってくださいと思います。私達もしっかり応援していきたいと思っています。

息子がいつも言っていること。「友達がいるから頑張れる」。地元の友達以外に、高校でたくさんさんの友達に出会いました。息子は良い友達に恵まれているんだなと嬉しく思います。友だちは一生の宝物です。忘れることなく、大切にしたいです。県外の高校に行くことに反対していた私ですが、県外でのいろんな経験が、息子にとっ

栄養課



いっしょ

調理員 芦刈 美和子

みなさんは自分の名前の由来って知っていますか？最近では、親からの一番最初のプレゼントとも言われていますよね。私にも四人の娘がいます。今回はこの子どもの名前について書こうと思います。

人の心、自分の心を大切にしてくれるように、「心」はつながっているように、と思いを込め、漢字の一部に「心」を使っています。女の子ばかりですが、どの子も気が強いので、とても仲良し♡という姉妹ではありません（笑）。上三人は剣道習っています。攻めの方、守りの方、やる気が三人ともバラバラです。一人ひとり好きなものも、遊びもこんなに違うのか？と驚く時もあります。きつと後、数年も経てば、口をきかないような喧嘩もするでしょうし、離れて暮らすようになれば、会うことも減ってくるでしょう。それでも一緒に笑い、楽しんで、何かあれば助け助けられ、四姉妹であることを充分に活かして、四人

が良い経験となり、成長させてくれていると思います。そんな息子から教わり、親も成長している。親が思うより子は自立しているんですね。息子はしっかり、親離れをしているけれど、私はまだまだ子離れは無理のようです（笑）。親はいつまでたっても子を信じているけれど、いつも心配で仕方がありません。これから先、いろんなこ

仲良く心を繋げて、大きく成長していつてくれたらな、と思います。



とがあると思うけれど、いつまでも息子の夢を応援したいと思っています。



より良い利用者支援に向けて 10月11日

ケアサポート業者からオムツについて説明を受けました。最近のオムツは通気性を良くしていること、また中に敷くパッドがずれない構造になっていることなどの説明を受けました。また、職員が制服の上から実際にオムツを当てて、留め方による装着の安定感を体感しました。この体験を活かして利用者に、より良い支援が提供できるようにしていきたいと思えます。



“教育と福祉を考えるフォーラムinうすき” 10月14日

“教育と福祉を考えるフォーラムinうすき”が臼杵市民会館で開催されました。大分県は2018年度の“国民文化祭・障害者芸術文化祭”の開催県でした。それに併せて、フォーラムも障害者芸術に関する基調講演を中心に、各施設が活動を発表するイベントの時間が設けられました。恵の聖母の家は車椅子レクダンスで「若い広場」と「マイムマイム」の2曲を披露しました。ハロウィンのアクセサリを身につけた利用者は、初めての会場で緊張した様子もありましたが、オーガンジー（カラフルな布）を用いたダンスを披露し、会場からたくさんの拍手をいただきました。



施設体験実習 10月24日～10月25日

恵の聖母の家は、地域の関係機関と人事交流を図っています。今年度も重症心身障害児施設久山療育園重症児者医療療育センター職員5名が体験実習として、病棟で実際に入所者の支援を行いました。「利用者に使いやすいように工夫していて、皆で作っている感じがした」「スタッフの人数が少ないと聞いたが、バタバタしてなくて、声かけも多く、介助も丁寧で、役割分担ができていた」といった感想をいただきました。

桜の実青少年少女合唱団 11月3日

桜の実青少年少女合唱団によるボランティア公演が地域交流ホームで開催されました。会場には、恵の聖母の家、潔き聖母の家の関係者、地域の皆さんが来られました。プログラムでは、団員が客席に入って、一人ひとりと触れ合う時間がありました。「肩たたき」の歌では、客席の方の肩を団員がやさしくたたきながら歌って、皆、表情も緩んで、気持ち良くされていました。楽しい時間をありがとうございました。



家族の日・ファミリーフェスティバル 9月8日

今回、ステージの催し物は前半と後半に分けました。前半は、前年度好評だった演歌ピクス、三重町3B体操、後半は、“2018めぐみフェス”として、入所利用者、児童発達支援センター利用者、訓練課の新職員が出演して、交流を深めました。会場には子どもたちの元気な声が響いて、とても明るい雰囲気になりました。病棟ホールでは、入所利用者やご家族、職員の作品を展示して楽しみました。



抱えない介護 9月12日

今年度4月にノーリフト委員会活動を開始しました。利用者は安全に、職員にとっては身体の負担を少しでも軽減し、より良い仕事ができることを目的として、「抱えない介護」に取り組んでいます。今回、介護ショップの“あわや”さまから移動式と天井につりさげる、天井取り付け型のリフトをお借りし、病棟ホールで、職員に操作説明やリフト体験をしました。



第44回日本重症心身障害学会学術集会 9月28日～9月29日

“高度医療と療育—いのちとくらしの現在から未来へ—”をテーマに、東京のタワーホール船堀で開催されました。医療的対応の一つである人工呼吸器に関しては、“シンポジウム1人工呼吸器管理の院内から在宅まで”の中で、当施設の施設長で小児神経専門医でもある佐藤圭右から“当施設における人工呼吸器管理”と題して現在の取り組みを報告しました。



第29回重症心身障害療育学会学術集会 10月4日～10月5日

第29回重症心身障害療育学会学術集会が和歌山県民文化会館で開催されました。第29回も多くの取り組みが発表され、当施設からも看護課主任が重症心身障害児の終末期について発表を行い、地域連携室主任はセッションの座長を務めました。



まちなかアート 10月10日

まちなかで障がいのある方のアートにふれていただくことを目的とした“まちなかアート”が臼杵市観光交流プラザで開催されました。作品を出展している恵の聖母の家の入所利用者5名も、展示の様子や鑑賞者から感想を聞いて今後の創作意欲につなげようと、会場に出かけました。会場では、傾聴ボランティアや元職員、以前展示を行った病院の展示責任者から作品の感想を聞くことができました。感想を聞いて、入所者利用者は「これからも頑張る」と今後の創作活動につなげていました。（※2頁“きらりん”をご覧ください）



10月16日 室内レクリエーション

外出活動が難しい方には、毎年、施設内で活動を行っています。今回は、秋の自然を感じる活動として、花などを用いたハーバリウム制作を行いました。また、日常とは違う雰囲気を感じてもらうため、部屋からテラスに場所を移して行いました。もみもみ体操で身体を温めたり、箱の中身当てクイズや虫の声を流して、虫の名前を当てクイズを行いました。ハーバリウム制作では、参加者が自由に容器を選んで、花や貝殻、ビー玉などのアクセサリを入れていきました。そして最後に専用のオイルを入れました。参加者から「きれいだね」「すごいね」といった感動が聞かれました。心地良い陽射しの中、家族と職員と入所利用者で、テラスでゆっくり過ごしながら秋を感じる、良い一日となりました。



10月11日 しまむら日杵店

市内の衣料品店に買い物に出かけました。参加者の中で、車が好きな人は、乗車したとたんに嬉しそうに声を出して、移動中も外の景色に目を向けて楽しまれていました。2家族の参加があり、一緒に服を選んだりしながら買い物を楽しみました。服を購入した後は、「好きな車を見てみよう」と母親から声かけがあって、駐車場の車を見て楽しんでいました。買い物以外にも、興味があるものを家族と一緒に楽しむ時間が過ごせました。



10月18日 パークプレイス大分

大分市の大型商業複合施設に買い物に行きました。買い物では、自分が欲しい物を言葉で伝えたり、提示された商品の中から選んだり、商品の名前に表情で応えたりしながら、それぞれ自分で買うことができていました。また、衣類の仕立て直しで、店員さんとの関わりを楽しむ人もいました。昼食にデザート付きのオムライスやハンバーグを頼んだ人は、その形や色に驚いていましたが、食べられるとわかると美味しく食べていました。エレベーターに入った人や普段、療育活動で使っている商品を見て、笑顔を見せたり、外の景色を見て楽しんだり、皆、それぞれ有意義な時間を過ごしました。



7月12日 題材探し（とんとんクラブ）

11月のときめき作品展に出展する題材を探しに、大分マリーンパレス水族館うみたまごに入所者3名が出かけました。水族館では、普段よりも口数が少なくなるなど、周囲の雰囲気に緊張した人もいましたが、海の生き物をしっかりと見て、声に出すことで、生き物の持つ雰囲気を感じとっている人もいました。また、題材を探すだけでなく、イルカショーの観覧もできて、水族館の楽しさも味わい、リフレッシュにもなりました。



9月20日 パークプレイス大分

大分市の大型商業複合施設に買い物に行きました。この日を楽しみにしていた参加者の一人は、朝、職員の顔が見えると、笑顔で声をあげて喜んでいました。3家族の参加があり、母親の顔を見つめて、嬉しそうな表情になったり、父親がそばにいただけで安心した表情をみせたり、ご家族の声かけに嬉しそうに返事をするなど、家族と楽しい時間を過ごすことができました。職員が付き添った人も、メモをもとに商品を探して、鏡の前で試着したりしながら買っていました。館内では自分でエレベーターボタンを押したり、レジの支払が終わった後にかごをきちんとおす人もいました。昼食はフードコートで、それぞれ好きな食べ物を選んで、楽しい一日になりました。



9月27日 マルショク日杵店

市内のスーパーに買い物に出かけました。出発前は緊張していた人も、車が動きだすと緊張がとれて、外の景色に笑顔を見せていました。買い物では、自分で商品を選ぶ人が多く、服よりもぬいぐるみやおもちゃが気に入って、レジまで手放すことなく、自分で店員に渡す人、店員さんやお客さんに手を振って関わりを楽しむ人など、そのらしさがみられました。また買い物よりも車内から外の景色を楽しむ参加者もいて、それぞれに楽しい時間となりました。



※関係者の皆さま、ありがとうございました。



▼各部署の声です。今年度の目標 「共同」 共に輝き成長する

児童発達支援センターめぐみ

最近のどきどき

◆八月十七日(金)

涼を楽しむことを目的に①うちわ・風船飛ばし②ヨーヨー釣り・魚釣り③水風船・水遊び④金魚すくい⑤水鉄砲のブースを設けて夏遊びを行いました。支援者ととも真剣な眼差しで狙いを定め、金魚を掬ったり、水鉄砲で的を射たりと、限られた時間内で全部のブースを廻ることができた方、なかなか思うように次に進めず足踏みをする方など、いろいろでしたが充実した一日を過ごすことができました。



◆八月二十四日(金)

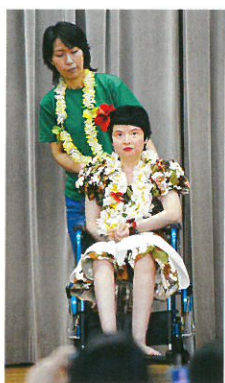
九州フラダンス協会野津教室の皆様(八名)をお迎えし、ボランティア公演を開催しました。ハワイアン風の曲に合わせてのフラダンス、趣向を変えて今では懐メロとなった麦畑(オヨネーズ)でのパフォーマンスなど、いろいろな演出で見ているものを楽しませてくれました。瀬戸の花嫁の曲では生活介護の利用者が曲に合わせて大熱唱し、会を盛り上げてくれました。



た。三家族・託児所の方々の参加もあり、楽しいひと時を過ごすことができました。九州フラダンス協会野津教室の皆様、また機会がありましたら是非、ご来所くださいますようお願い申し上げます。

◆九月八日(土)

今年の家族の日(ファミリーフエスティバル)は、演歌ビクス・3B体操・二〇一八めぐみフェスの順で催し物がありました。ダンスの先生の指導のもと、リズムミカルな曲に対し、自由に身体を動かし楽しそうに自らを表現する一面や、ステージを見つめ、手拍子や楽しそうな表情で過ごす方が見られました。そしてメインの二〇一八めぐみフェス、センターの出し物は、ハワイアン衣装を身にまとい、優雅な曲に合わせてのパフォーマンスでした。利用者職員が一体となり見事、最優秀パフォーマンス賞をいただくことができました。



◆十月二十四日(水)

室内や中庭に隠された宝(カプセル)を探すレクリエーションを行いました。カプセルの中には得点とお題を隠しておくなど、工夫を凝らしながら、得点を競う形式としました。カプセルを探すのが上手な方、なかなか見つけれずにヒントをもら

う方などワイワイガヤガヤと賑やかな時間となりました。

◆十月三十日(火)

毎年恒例となっためぐみハロウィン仮装発表会を今年も行いました。センターで購入した衣装グッズと入所から借りた衣装グッズをとりまぜて、利用者だけでなく、職員も衣装に着替えてハロウィンの仮装をしました。終始笑顔で楽しい時間を過ごすことができました。



居宅訪問型児童発達支援

居宅訪問型児童発達支援事業にあたり

児童発達管理責任者 竹尾 昭彦

保育士 長野 祐子

患の聖母の家では、居宅訪問型児童発達支援を二〇一八年十月から始めました。居宅訪問型児童発達支援とは、児童発達支援医療型児童発達支援またはデイサービスを受けるために外出することが著しく困難な児に対して、成長する中で、必要な訓練や療育を提供するものです。対象年齢は小学校就学前に限らず、満十八歳に達するまで

利用は可能です。

療育では、ご自宅での保育を行い、お子さんの生活リズムを大切にすることや、健康状態に気を配り、一人ひとりの発達過程に応じた遊びを展開しています。また、保護者の意向に耳を傾け、気持ちを受け止め、保護者が望んでいる子育てに寄り添えることを大切にしています。現在、Aちゃん(二歳十か月)のお宅を訪問し、週一〜二回のペースで一時間ずつ、保育を利用してもらっています。お母さんのご協力を頂きながら、玩具や絵本、歌など、色々な素材に触れる遊びの他に、関節がかたくなるように触れ合うものや、季節を感じられる遊びを体験してもらっています。



著しい成長期にある乳幼児にとつて、「遊び」というのは重要なものです。子供は遊びを通して感じたり、気づいたりしながら、できることを一つひとつ増やしていきます。また、人と接していくことで、豊かな感性を身につけ、大きくなっていきます。様々な遊び体験が健やかな成長を促し、情操を育んでいるといえます。保育での遊びは工夫して提供しますので、遊ぶ場面でもいつもと違うお子さんの様子がみられると思います。

これからも利用してくださる方々に保育の時間を楽しんでもらえるように努力していきます。そして一緒に子供さんの成長の様子を喜んでいきたいです。精一杯頑張らせて頂きます。



生活福祉課



年末・年始といえは

生活福祉課 嵯峨 武志

恵の聖母の家で働き始めて早一年が経とうとしています。昨年を振り返ると三つの病棟で働き（あゆみの広場は十日間でしたが）、初めてのことがばかりでとても良い勉強をさせていただいたとともに慌ただしい毎日だったなと思います。たくさんの方にご心配とご迷惑をおかけして申し訳ありませんでした。まだまだ慣れないことも多々ありますが今年もよろしくお願いいたします。

さて話は変わりますが、皆さんは年末年始どのように過ごされましたか？年末年始というと私は一年の中で一番大きな夢をみる時期となります。旅行に行きたいな、車を買いたいな、おいしいものを食べたいな等々、そう、年末ジャンボ宝くじです。毎年、夢をみたいがために年末ジャンボ宝くじだけは購入するようにしています。皆さんは購入されましたか？

年末ジャンボ宝くじも当選確率と当選金額の違いで今では「ジャンボ」「ジャンボミニ」「ジャンボプーチ」と三種類に増え、どの種類を購入しようか毎年悩むところですね。悩みながらもどうせ夢をみるなら大きい方がよいなと思い、結果「ジャンボ」を購入しています。昨年の「ジャンボ」の一等は前後賞合わせて十億円、しかし当選確率は二千万分の一…。これは当たるわけが

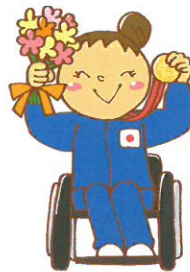
ない、と思いがちですが、大分市内の大きなショッピングセンターの売り場で過去に一等が出たことがあると聞くと、ひよっとしたらとつい夢をみてしまいます。

そもそも皆さんは宝くじのことをどこまでご存知でしょうか？実は収益金の約四十五％しか当せん金として使われていないのです。では残りは何に使われているのかというところ約四十％は全国都道府県の公共事業に使われています。（残りの十五％は経費や広告費に使われています。）皆さんは「宝くじ号」と書かれたバスや福祉車両を見たことはありませんか？実は大分県では献血バスや特別支援学校のスクールバス、車いすマラソンにも使われているのです。宝くじ購入金額の約四割は誰かの役に立つように使われていると思うと、ちょっと寄付をしたような感覚にもなってしまう。

そして忘れてならないのは九月二日の「宝くじの日」。ハズレ券を対象とした再抽選が行われ、粗品が当たるようになっていきます。私はハズレ券を捨てずに神棚に置き、九月二日の再抽選を楽しみにしています。

平成二十六年度中、期限までに換金されなかった時効当選金は百六十一億円、内四億円以上が一本、一億円以上が十一本

あったそうです。購入された宝くじは必ず売り場で番号の確認をしてもらいましょう。高額当選金を見落としているかもしれませんよ。



恵で働くようになって

宮繕 佐藤 英寿

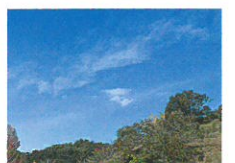
私が今まで仕事としてきましたのは、商品やシステムを顧客に説明して、注文を頂く営業でした。毎月末、数字に追われるような仕事で、帰宅が翌日となることもありました。

昨年六月より、恵で働くようになって仕事内容も大きく変わり、体を動かすことが多くなりました。同期入職の鎌手君は若く、動きも覚えも良好なので、五十歳前のおじさんの私としては焦っていました。

自分なりに取り組んだことは、まず「動けるようになる」為に、食事の調整と昼休みの運動でした。宮繕の仕事内容も多種多様でして、先輩方からの教えをテキパキとはいかないのですが、確実に習得し、自ら考え、積極的に行動していくようにして、少しでも皆さまのお役に立てれば良いと思っています次第です。

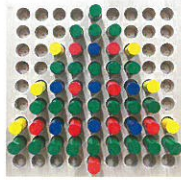
性格は明るい方ですので、お気軽に声をかけて下さい。公私ともども、兄弟ともども、何卒宜しくお願い申し上げます。

宮 繕





保護者の 皆様から



子どものペースで

お母さまから

うちの子は男の子で、今5歳。ひとりっ子です。療育を受ける前は、言葉が少なく、自分の思っていることがなかなか言えずにいました。自分の言葉で話すのができなくて、真似をしたり、オウム返しでやりとりしていたので、もう少しお話ができればなと思っていました。それで、言葉の練習をしたいと思っていたところ、市の子ども子育て課の方に恵の聖母の家を紹介していただきました。最初は、恵の聖母の家から保育士が家に来て、療育を行う、訪問療育を受けることになりました。うちの子は人見知りがなく、初めて会う人にも慣れるのが早く、保育士との遊びを楽しんでいました。先生もとても優しく、うちの子もすぐに打ち解けることができたと思います。しばらくして、自宅でなく、恵の聖母の家で同じ療育ができる話があり、外来保育に行くことにしました。家では、私が家にいる時間が長くて、散歩に行く以外は、主に家の中で過ごしているの、子どもの遊びは家の中が主になります。外来保育では、シーツブランコなど。全身を使って遊ぶ療育もあって、家の中でできないことができます。子どもも家で遊ぶ時と変わらず、楽しんでいました。それが、2017年の6月だったと思います。

その後、訓練も始まりました。作業療法と言語聴覚療法です。

作業療法では、初めに、「こういうことができるようになりますよ」という説明がありました。子どもは、体を使って遊ぶのが楽しい様子で、笑いながら楽しんでいました。今はトランポリンが好きで、部屋に入ると、真っ先にトランポリンに向かっていています。言語聴覚療法では、ことばでやり取りができるように頑張っています。訓練が終わると、一生懸命やった感じの表情を見せています。訓練は、遊びの要素が多く、楽しみながら、いろんなことが学べて良いなと思いました。

それまでは落ち着きがなくて、長い時間、一つのことをするのが苦手でしたが、療育を受けて、少しずつ改善されてきた気がします。例えば、好きなことは長く続けることができ、苦手なことは、以前はすぐに逃げてしまうこともありましたが、それはなくて、得意でないことも、少しできるようになりました。また以前、家では、夜中にずっと一人で起きていることが多かったのですが、生活リズムが整ってきて、朝までぐっすりネンネしてくれるようになりました。保育園では、お友だちと仲良くするのが少し苦手みたいですが、毎日楽しく通っています。

親としては、療育を受けて、少しずつですが、できないこともできるようになっていて、子どもの成長を実感でき、嬉しく思っています。親としては、恵の聖母の家の先生方との何気ない話も楽しく、ありがたく感じています。これからも、うちの子のペースでやっていければと思っています。療育を受けようかな、そうしようかなと悩んでいる方がいらっしゃったら、「百聞は一見にしかずで、まずは気軽に見学することが大切ですよ」、そう言ってあげたいと思います。



支援学校 訪問教室



大分県立臼杵支援学校 訪問学級担当者

本年度、42号『ルルドの丘』でお知らせしていた『遠隔授業』の取り組みが始まりました。『遠隔授業』とは、訪問教育やベッドサイド授業をしている児童生徒が同年齢の児童生徒と交流する学習機会を保障することを目的に、iPad等のICT機器を利用して学校と中継して行う授業です。

小学部では、9月26日に行ったスクーリングの事前学習として、2回実施しました。この時の『遠隔授業』の目的は、①スクーリングが行われる日にちをお知らせすること②自己紹介し、名前を知ってもらうこと③スクーリングの時に楽しみにしていることや友だちにしてもらいたいことをお知らせすること、の3つでした。授業時間帯の都合で、1回の授業時間は10分でしたが、スクーリング当日は、友だちから自然に名前を呼んで関わって触れ合う姿が見られる等、『遠隔授業』の効果がみられました。スクーリングの音楽の授業でも、みんなの輪の中に入って楽しく参加できました。

中学部では、生活単元学習や作業学習等、4回実施しました。画面に映る友だちや先生の顔を見て笑ったり、一生懸命声を出して返事をしようとしたりする姿が見られました。学習発表会「イムラ・スマイルフェスティバル」に向けての台本の読み合せの授業では、友だちや先生の台詞をよく聞いていました。また、通学生も自分の台詞を聞いてもらおうと、台本読みに真剣に取り組む等、『遠隔授業』ならではの効果が見られました。

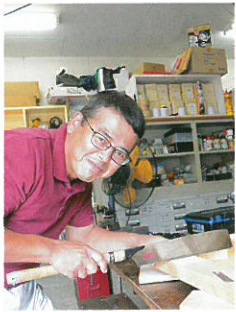
取り組みがはじまったばかりの『遠隔授業』です。訪問生にとっても、通学生にとっても『遠隔授業』をすることの効果がみられる一方、音声途絶えたり、映像が乱れたりするトラブルがあったり、学校側との授業時間の調整が必要…等、様々な問題もあります。これらの課題に取り組みながら、『遠隔授業』の“同年齢の児童生徒と交流する学習機会を保障する”ことを目的に、これからも取り組んでいきたいと思っています。



★ぴかぴかぴかぴかぴかぴか★

新しく入られたスタッフをご紹介します。① お名前 ② 職種 ③ お住まい ④ 趣味 ⑤ 一言

Meguminoseibo



- ① 佐藤英寿(さとう ひでとし)さん
- ② 管理課宮繕
- ③ 大分市
- ④ 趣味はゴルフです。恵の聖母の家に就職してから、ほぼ毎日、昼休みにルルドの丘にあがってクラブを振っています。スコアは100前後です。
- ⑤ 仕事は、藤本さん、藤木さん、鎌手くんとで、皆さまのお役に立てるように、迅速かつ正確に、楽しく行っています。



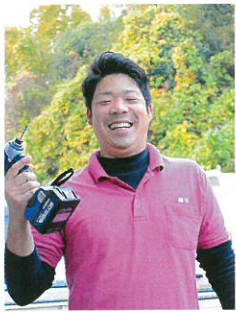
Meguminoseibo



- ① 川田優菜(かわた ゆな)さん
- ② 看護師
- ③ 大分市
- ④ 野球観戦が好きで、よくソフトバンクホークスの応援に行きます。内野席ではなく、外野席でワーワー言いながら、ビールを呑みながら応援します。あと、体を動かすことが大好きなので、ダンスや筋トレに今、ハマっています(*'-'*)。
- ⑤ まだまだわからないことだらけですが、一日でも早く仕事ができるように頑張ります。よろしくお願い致します。



Meguminoseibo



- ① 鎌手尚紀(かまて なおき)さん
- ② 管理課宮繕
- ③ 臼杵市
- ④ 初めて一年のゴルフです。100が切れるように頑張っていますが、なかなか切れません(◎_◎;)。
- ⑤ 半年が経っていますが、まだまだわからないことも多く、ご迷惑をおかけすることもあると思いますが、よろしくをお願いします。



Meguminoseibo



- ① 仲敷淳子(なかしき じゅんこ)さん
- ② 外来医事
- ③ 臼杵市
- ④ 今楽しみにしていることは、小3の子どもが最近ラグビーを始めたので、その練習や試合を応援に行くことです。たくましくなっている姿を見るのが楽しいです。
- ⑤ わからないことばかりですが、笑顔を忘れず、一生懸命頑張ります。よろしくお願い致します。



恵の聖母の家の場所はココになります。どうぞご利用下さい。

恵の聖母の家では、フェイスブックを開いています。写真や動画で日々の生活・活動を紹介しています。どうぞご覧下さい。



お知らせ

▼退職・パート採用
二〇一八年 七月三十日付
用務 阿南 みえ

▼退職
二〇一八年 八月三十日付
外来医事 毛井 宏美
事務職員 湯口 勝代
看護師 飯倉 啓介
看護師 梶原 澄子
十月三十一日付

▼新規採用
二〇一八年 六月一日付
宮繕 鎌手 尚紀
佐藤 英寿
七月二十六日付
外来医事 仲敷 淳子
八月一日付
看護師 川田 優菜

人事

◇各ご連絡・ご相談先

発達外来(初診受付) …0974-32-7778	児童発達支援センターめぐみ…0974-32-7784 保育所等訪問支援・児童発達支援・放課後等デイ・生活介護
相談支援事業所ころこ…0974-32-7788	訪問看護あんな・地域連携室…0974-32-7667
外来保育きっず……………0974-32-7778	恵の聖母の家(代表) ……………0974-32-7770

行事予定

※青色…施設外療育 ◎…ケースカンファレンス ㊟…個別面談
 ㊤…権利擁護・虐待防止部会 ㊦…全体朝礼 ㊧…労働安全衛生委員会
 ㊨…リスクマネジメント部会 ㊩…入浴日

2019年1月			2月			3月			4月		
1	火	正月行事	1	金	㊩	1	金	㊩	1	月	㊩
2	水	正月行事	2	土		2	土		2	火	㊦
3	木		3	日		3	日		3	水	㊩
4	金	㊩	4	月	㊩	4	月	㊩	4	木	㊤
5	土		5	火	㊦	5	火	㊦	5	金	㊩
6	日		6	水	㊩	6	水	㊩	6	土	
7	月	㊩	7	木	㊤	7	木	㊤	7	日	
8	火	㊦	8	金	㊩	8	金	㊩	8	月	㊩
9	水	㊩	9	土		9	土		9	火	◎
10	木	㊤	10	日		10	日		10	水	㊩
11	金	㊩	11	月		11	月	㊩	11	木	
12	土		12	火	㊩	12	火	◎	12	金	㊩
13	日		13	水		13	水	㊩	13	土	
14	月		14	木		14	木	㊨	14	日	
15	火	㊩	15	金	㊩	15	金	㊩	15	月	㊩
16	水		16	土		16	土		16	火	◎㊧
17	木		17	日		17	日		17	水	㊩
18	金	㊩	18	月	㊩	18	月	㊩	18	木	㊨
19	土		19	火	◎㊧	19	火	◎㊧	19	金	㊩
20	日		20	水	㊩	20	水	㊩	20	土	
21	月	㊩	21	木	㊨	21	木		21	日	
22	火	㊧	22	金	㊩	22	金	㊩	22	月	㊩
23	水	㊩	23	土		23	土		23	火	◎ ㊟
24	木	㊨	24	日		24	日		24	水	㊩
25	金	㊩	25	月	㊩	25	月	㊩	25	木	施設外療育
26	土		26	火	◎ ㊟	26	火	◎ ㊟	26	金	㊩
27	日		27	水	㊩	27	水	㊩	27	土	
28	月	㊩	28	木		28	木	吉四六ランド	28	日	
29	火	◎ ㊟				29	金	㊩	29	月	
30	水	㊩				30	土		30	火	㊩
31	木					31	日				

※予定変更の場合があります。4月の行事予定は現在計画中です。 ※関係者の同意のもと、写真を掲載しております。

編集後記

新年、あけましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。さて、今年の干支は亥ですね。この年に生まれた人は、正義感が強く、相手が誰であっても物怖じしない勇気を持っているそうです。また亥は元気ですから、無病息災の象徴とされているそうです。元号もかわる年が、平和で元気な年になりますように☆彡 (S.M)